

第4回URAシンポジウム/第6回RA研究会

人文社会分野への研究支援と研究評価  
～ グットプラクティスを探る ～

# 英国の研究評価体制からの考察

2014年9月17日

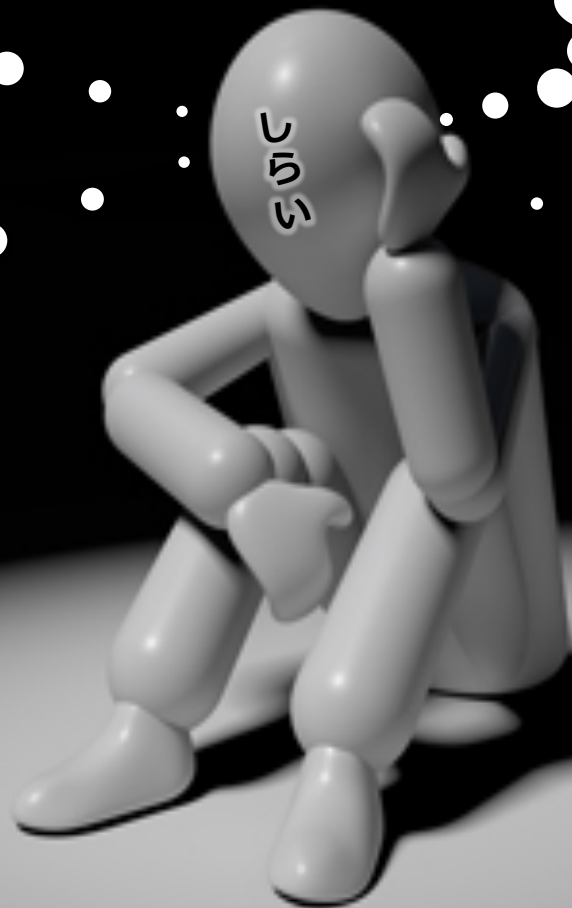
京都大学学術研究支援室  
白井哲哉

2年後URAの  
雇用財源は？

間接経費の  
獲得が大事？

誰の何のため  
の支援？

そもそも  
支援？



人社支援って何をすれば良い？

# 自然科学系

1億円の研究プロジェクト

獲得支援をした場合…

間接経費 3000万円 ゲット！



# 人文社会科学系

100万円の研究プロジェクト

獲得支援をした場合…

間接経費 30万円 ゲット…

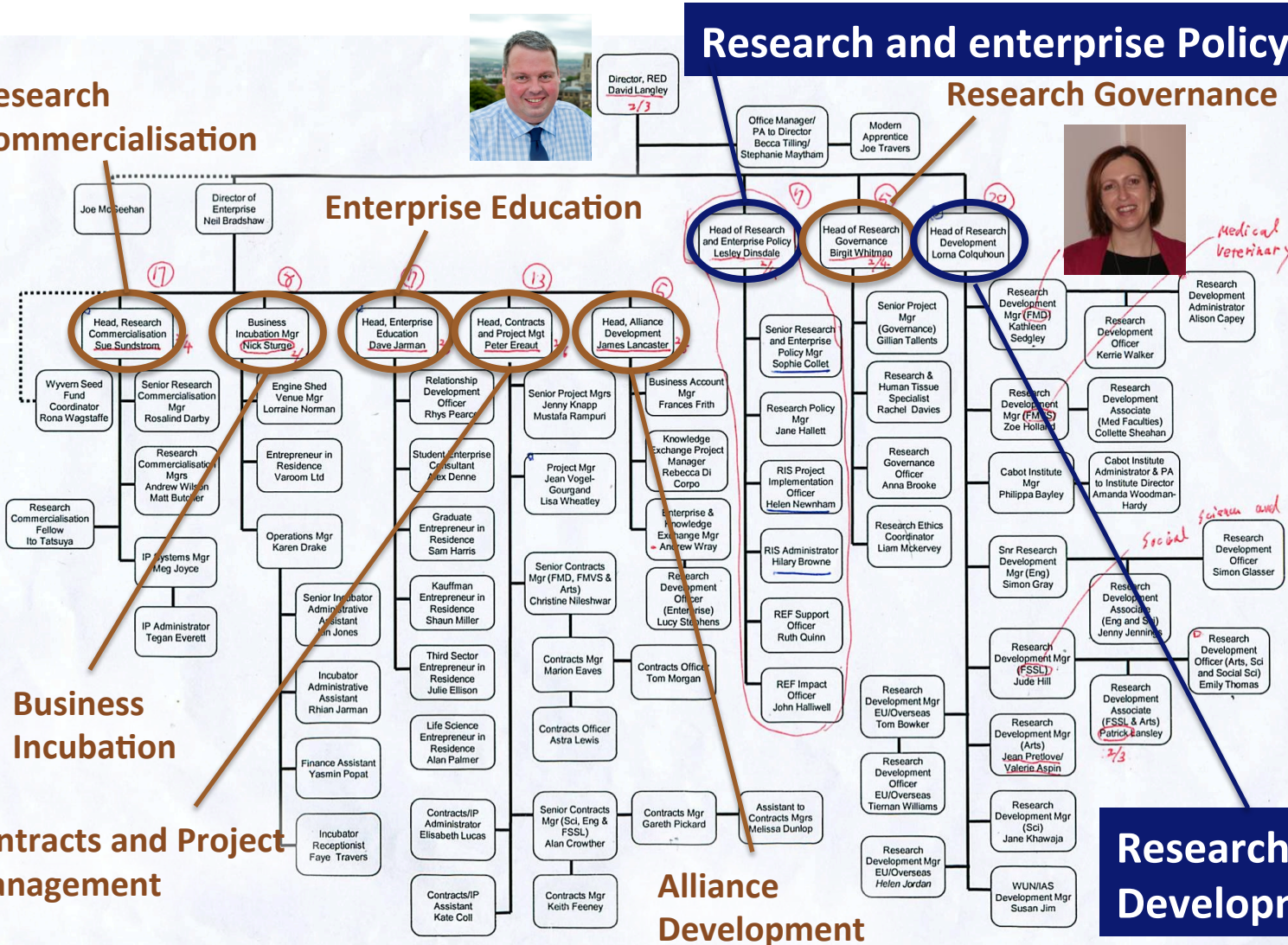
# Research and Enterprise Development (RED) in Bristol University

## Research Commercialisation

## Research and enterprise Policy

## Research Governance

## Enterprise Education



## Business Incubation

## Contracts and Project Management

## Alliance Development

## Research Development



# Research Development in RED

- 20名からなるRED内で最大のチーム
- 業務内容は研究資金の獲得支援
- 企業以外からの研究資金の獲得がメイン
- **学内の6つの部局に対して、このチームのメンバーは担当する部局が決められている**
- 各部局担当以外に海外ファンド担当が4名、学際融合担当が1名



Lorna Colquhoun

# Research and Enterprise Policy in RED

■ チームは全部で7名、役割は以下の3つ

① Bristol大学の研究者の研究活動のデータを  
集める（システムの構築・管理・運営）



Lesley Dinsdale

② **大学, 各部署の研究評価に資するデータを作成**

→ Research Committeeで評価するためのデータを  
各部署から集め作成。

**特にREF（後述）に提出するデータの作成を担う**

③ 大学の研究推進戦略のドラフトを作成する

→ Research Committee で決められる研究推進戦略の  
ドラフトを作成している

# Research Excellent Framework (REF) 概要・背景



UK政府による研究の質を評価するシステム

- 2006年より、**学問領域間の違いに留意した研究評価と研究資金配分の見直し**を開始
- 2008年、2009年にパイロットとして研究費配分の基礎となる研究の質の評価の仕組みResearch Assessment Exercise(RAE)が実施
- 2010-2011 RAEの試行を踏まえて改訂された評価基準・方法 (REF) が発表・実施
- 2014年度から新たなREF2020が実施される



# Research Excellent Framework (REF) 概要・背景



## REFでの評価は…

- 評価基準や評価レベルの設定は毎年度検討される
- 定量的指標と専門家パネルによるレビューにより実施
- 専門家パネルは以下の4つの主要パネルに分類
  - Medical and Biological Science
  - Science and Engineering
  - **Social Science**
  - **Arts and Humanities**
- それぞれに対して、**Output** と **Impact** と **Environment** の評価指標が設定



## REFでの研究評価

### Output (65%)

- 研究のアウトプットの質を計るもの
- 論文の数など定量的なデータが評価される項目として含まれている
- これらの項目の設定は4つの分野ごとによって異なっている
- 全ての項目について、4段階の評価レベルが設定されている

### Impact (20%)

- 国の政策や社会・経済に影響を与えた成果に対する評価
- 何がどのように影響を与えたのか、それを説明するストーリーを作成する必要がある
- REFで初めて盛り込まれた評価項目、REF2020では25%になる

### Environment (15%)

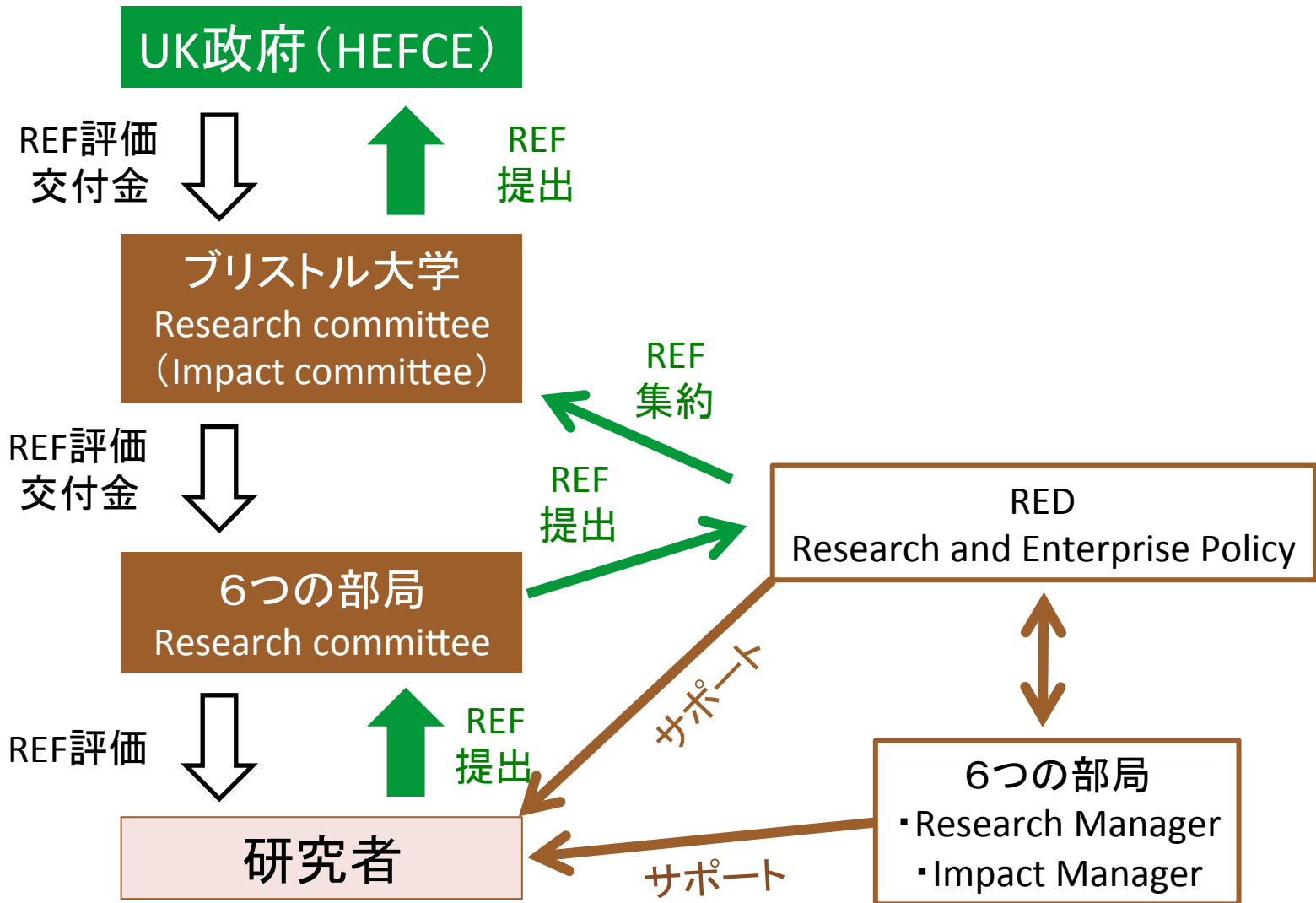
- 研究環境・設備についての項目、その研究の継続性についての評価



## Output (Arts and Humanities)

- books (authored or edited)
- journal articles
- published conference papers
- exhibition or museum catalogues
- creative writing and compositions
- databases
- dictionaries
- performances and other types of live presentation
- designs and exhibitions
- films, videos and other types of media presentation
- software design and development
- advisory report
- the creation of archival or specialist collections to support the research infrastructure
- chapters in books
- working papers
- electronic resources and publications
- translations; scholarly editions
- curatorship and conservation
- grammars
- digital and broadcast media
- artefacts

# ブリストル大学における研究評価体制

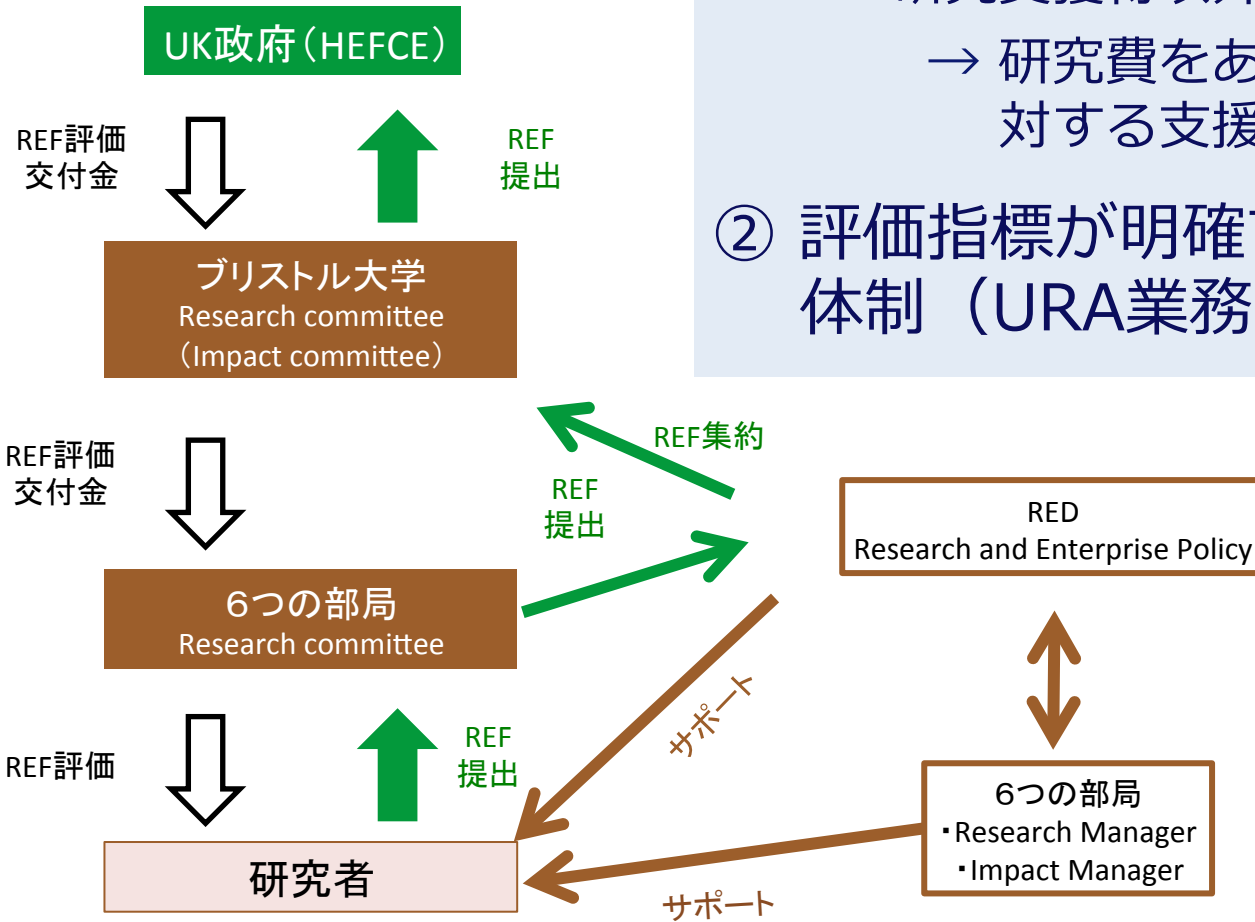




# ブリストル大学における研究評価体制

良い点 (私見)

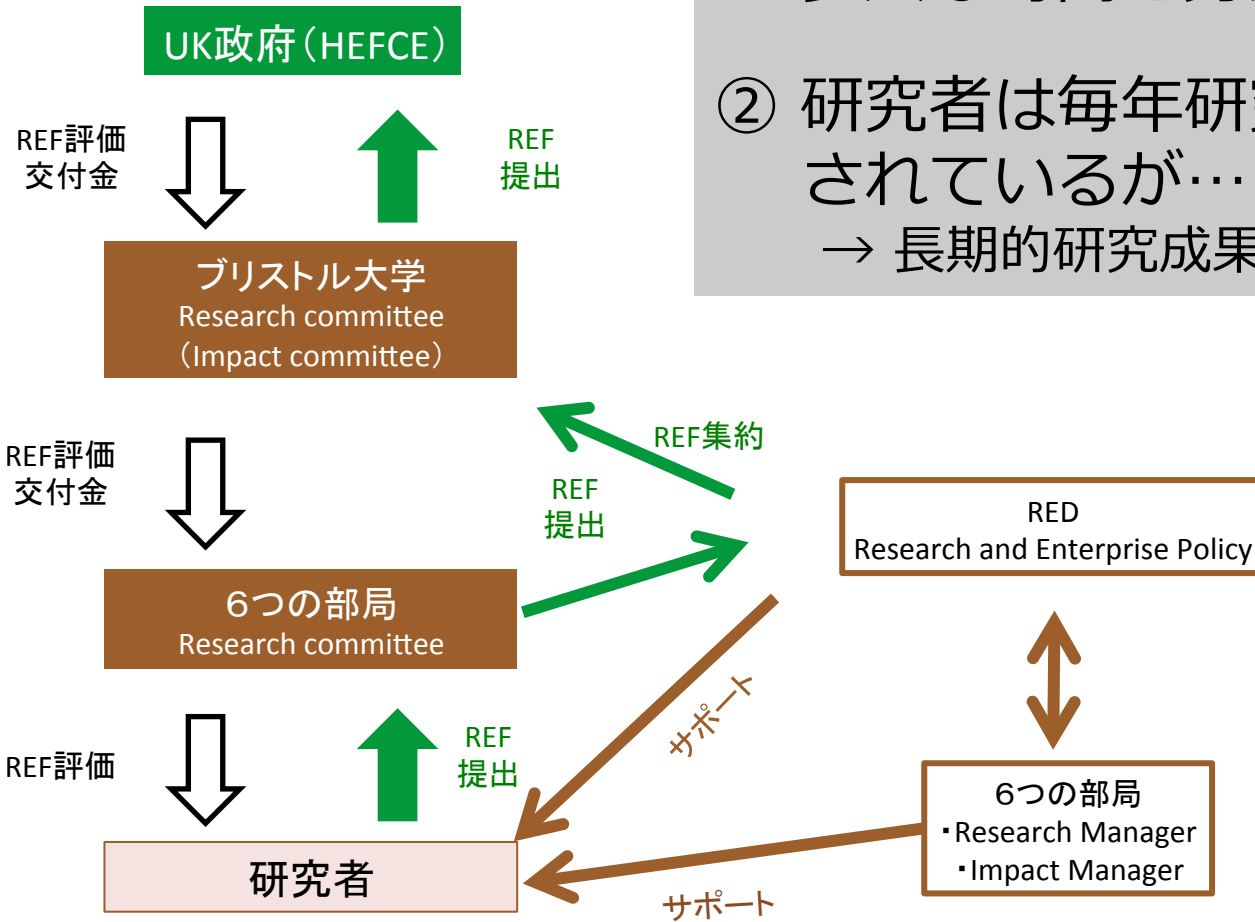
- ① 論文以外の評価軸がある
  - 研究費獲得以外の大学への貢献可能
  - 研究費をあまり必要としない学問に対する支援への需要
- ② 評価指標が明確であるためサポート体制 (URA業務) も明確かつ効率的



# ブリストル大学における研究評価体制

## 問題点(私見)

- ① 「政府」も「大学」も「研究者」も多大な時間と労力をかけている
- ② 研究者は毎年研究成果の評価にさらされているが...  
→ 長期的研究成果が評価されにくい





日本に同じシステムを導入できたとした場合

失ってしまう **「研究力」** はないか……